

## 識字・日本語教室の学習支援ボランティアを募集しています

私たちが住む地域には、様々な理由で文字の読み書きに不自由している方や、日本語の会話などで日常生活に不便を感じている人たちがいます。

「識字・日本語教室」では、そのような方々と「よみ・かき・ことば」の学習を通じた交流を行っています。

### 【識字・日本語教室の学習内容】

- ・文字の読み書きや日本語の会話などを学びます。
- ・毎日の暮らしに必要なことや日本の社会や習慣などを学びます。
- ・生活の中で困ったこと、わからないことも気軽に聞くことができます。
- ・読み書きや日本語を学習するだけでなく、さまざまな人と交流します。

### 【学習者の声】

- ・ひらがなや漢字を覚えて、孫に手紙を書けるようになりました。
- ・教室ではいろいろな人と会えて、いろいろな文化を知ることができるので、たのしいです。
- ・日本人の友だちがいないので、ここでは日本語で話しができるのでよいです。
- ・日本語はとてもむずかしいです。でも、とてもたのしいです。
- ・教室でたくさんの友だちができ、日本での生活が楽しくなりました。

### 【学習支援ボランティアの募集】

現在、各教室において、学習者との対話を通じて、日本語や文字の読み書きなど、学習のお手伝いをするボランティアを募集しています。

資格、指導経験、語学力は問いません。「教えるのではなく、ともに学ぶ」「文化・習慣・宗教など様々な違いを理解して相手を尊重する」ことを大切にいただけたらの方を募集しています。みなさんの参加をお待ちしています。

教室は、基本的に

- 週1回 ○約2時間 ○無報酬(交通費など自己負担)
- 学習者1人~数人に対し、ボランティア1人で学習(グループ、参加者全員で学習することもあります)

### 【教室の開催場所、曜日・時間は、インターネットをみてください】

小学校や生涯学習センターなど、身近なところで実施しています。



大阪市ホームページ

しきじにほんごきょうしつ おおさかし

検索

総合生涯学習センター

しきじ にほんご そうごう

検索

おおさか識字日本語センター

おおさか しきじ にほんご

検索

※学習者も随時募集しています。

教室・学習支援  
ボランティア活動について  
聞きたいときは

☎ 06-6539-3346 まで

大阪市教育委員会事務局生涯学習担当

## おおさか歴史探訪 114

大阪の史跡や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

### 天保山台場跡 — 大阪港湾史のキーワード“天保山” —

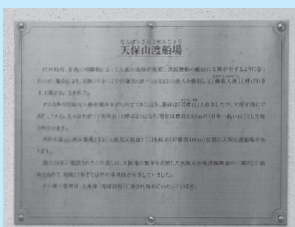
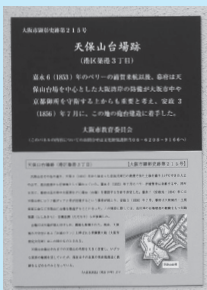
江戸時代の終わりごろ、安治川や尻無川の河口一帯は八幡屋新田・福崎新田・千歳新田などといった新田群の広がる土地でした。天保2(1831)年から、安治川河口の<sup>しんせつ</sup>浚渫土砂で天保山を築き始め、造山直後から行楽地として賑わいました。

嘉永6(1853)年のペリーの浦賀来航を受けて、幕府は天保山台場を中心とした大阪湾岸の防備が大坂市中や京都御所を守る上から重要と考え、安政3(1856)年7月、この地の砲台建設を計画しました。この計画に際しては江戸・品川沖の台場建設の経験をもつ勘定奉行の川路聖謨らが関わり、それまでの天保山を削平して、いびつな星形の輪郭をした西洋式要塞に改変していくことになります。ところがこの砲台は使われることのないまま、安政5(1858)年の安政五ヶ国条約によって大坂の開港が決まります。

こうして明治元(1868)年7月15日に大阪港が開港し、開港150年を迎えるということで様々な催しが行われます。開港当時の大阪港は安治川の川口町を中心とする河川港で、近代的な港湾施設としては不十分であったため、明治30(1897)年に大阪築港事業が開始されます。その起工式の行われた場所が天保山でした。

現在、天保山台場の痕跡はほとんど残っていませんが、天保山渡船場のある、安治川から天保山運河への入口にある鋭角に突出した部分が台場のなごりと思われる。天保山は大阪の港湾史を語るときのキーワードの一つといえるでしょう。

(大阪市教育委員会 文化財保護課)



天保山渡船場にある顕彰パネル